

令和2年度薬物乱用防止講座

4月23日(木)7校時の総合的な学習(探究)の時間に、1年生対象の「薬物乱用防止講座」が行われました。講座は「三者連携プログラム(DARP)」(岩手県教育委員会作成)の形式で進められ、薬物乱用が及ぼす心身への害や社会的影響を学ぶ他、薬物を勧められた時の対処方法について考える機会となりました。

1 導入

趣旨説明(本日の学習内容の確認)

2 展開①

教員によるロールプレイ①
「先輩からの危険な誘い」

「薬物乱用の害について」

講師: 学校薬剤師 神田 勇人 先生

- ①薬物乱用の意味
- ②薬物乱用と依存性
- ③脳への影響



3 展開②

教員によるロールプレイ②「やせたくて…」

「薬物乱用の社会的影響について」

講師: 花巻警察署生活安全課 スクールサポーター 菅 洋生 氏
学校薬剤師(神田勇人先生)による講義

- ①薬物乱用による未成年の検挙率の現状
- ②インターネットを利用した薬物乱用売買の現状
- ③社会生活への影響 失うものは「自由」「夢」「成長」



4 展開③

危険な誘いを断る対処の仕方
教員によるロールプレイ③「親とケンカして」
パターン1: 曖昧な返事
パターン2: 理由を言ってハッキリ断る
パターン3: 勧める相手に対して、逆に止めるように助言・支援



5 まとめ

手記「白い粒の恐怖」の朗読: 生徒
本日の学習内容の振り返り

講座後のアンケート(Classi入力)

【受講後の感想】

- 実際のデータを元に話して下さり分かりやすかった。自分たちと同じ高校生の薬物乱用の実例を聞いて、より身近さを感じたし、先輩後輩の関係で手を出してしまう事がもっともありそうだった。
- 「1回の覚せい剤で失われるもの」を聞いて覚せい剤が絶対に良くないことが分かりました。特に、自由が失われるということについて聞いたときは今の生活がどれだけ大切かということを感じさせてくれました。生活の中で嫌だなと思うことはたくさんあるけど、嫌なことがあれば嬉しいこともあるものなので1日1日を大切に過ごそうという思いになりました。
- 実際に未成年も使用し逮捕されているという話です。あまり身近なものに感じていなかったけれどこの話を聞いてさらに危機感を感じました。未成年にはあまり関係ないと思っていたけれどこれからはただことではないことだと思い過ごしていきたいと思いました。
- 一見、普通のアルバイトの広告だと思ったら、実は薬物の運び屋をさせられていたなどの、私たちの身近なところにも最近では隠語を使って、薬物の売買が行われていて、お小遣いを貯めればSNSを通じて簡単に薬物を手に入れることが出来ることがよくわかりました。
- 薬物を乱用すると、元の生活を送るのが難しくなるという事が一番心に残りました。たった1度薬物を乱用するだけで人生において大きな事になってしまうことが分かりました。そのため、私は不安な事やストレスがあったとしても薬物を乱用する事は決してしないようにしたいと思いました。
- 薬物乱用の動機を、周りの人がなるべく作らないように、人間関係を大切にしていきたい。

【もし友達の部屋に遊びに行ったとき、薬物を誘われたとしたら、あなたならなんと言って断りますか？】

- 拒否型 29名 『いやだ、絶対にやらない』『いらない、用事思い出したから帰るわ』
- 拒否+説得型 59名
『絶対に使いたくない。もし使っているのならやめなよ。親にいいなよ。』
『やっぱり薬物は危険だからやらない。それに君も薬物をやめたら？自由を奪われる前に。』
- 拒否+理由型 26名
『それはとても恐ろしい依存を引き起こしてしまうし、体にとても悪いものだから私は使わない。』
『絶対にやらないよ。一回使ったらもう後戻りできないんだよ。そんな物に頼っていたら自分をもっと苦しめるだけだよ。』
- 拒否+説得+理由型 34名
『私はやらないよ。危険だし、1回だけでも死んでしまうかもしれないんだよ。A子も、危険だからもうやめよう。』
『私はいらない。だって、そういうもので最高の気分を味わうほどつまらない人間じゃないもの。私は自分の力で、自分の手で最高を掴み取るんだ。その方がカッコいいでしょ？？あなたもよく考えて直したらどうかな？』
- 理由+説得型 23名
『1回使っただけで人生が狂ってしまうんだよ！絶対やめなって！』
『大丈夫じゃないよ。1回使用しただけでも死に繋がる可能性があるかもしれない。安易に考えないで。』
- 説得型 24名
『そんな物に頼らないで！薬物を使わないA子と過ごす時間が最高の時間だから…。』
- その他 12名 『警察って110番だよ？』『通報するぞ』